



平成 25 年度みんなぱく若手研究者奨励セミナー 「アートを考える——人類学からのアプローチ」

国立民族学博物館では、若手研究者による共同利用を促進するため、「みんなぱく若手研究者奨励セミナー」を開催します。当セミナーでは、弊館の機関研究「マテリアリティの人間学」をテーマに、本館教員による発表に続いて、参加者による個人研究発表を行ないます。

日時：2013年11月20日（水）～22日（金）
場所：国立民族学博物館 第6セミナー室（2階）

プログラム

11月20日（水）

開会挨拶 10：00～10：15 久保正敏（国立民族学博物館・副館長）
趣旨説明 10：15～10：30 丹羽典生（国立民族学博物館・准教授）

教員発表 司会：丹羽典生（国立民族学博物館・准教授）

- ① 10：30～11：30 吉田憲司（国立民族学博物館・教授）
「アートと人類学のあいだ」
- ② 11：30～12：30 飯田 卓（国立民族学博物館・准教授）
「くらしに伝わる技の遺産化：マダガスカルの事例より」

◇セッション① 司会：吉田ゆか子（国立民族学博物館・機関研究員）

- 13：30～14：20 伏木香織（大正大学非常勤講師）
「Heritage の形成——シンガポールの南音に見る人と音の移動が紡ぐ文化遺産としてのパブリック・メモリー」
- 14：20～15：10 古沢ゆりあ（総合研究大学院大学博士課程）
「フィリピンの聖母崇敬と聖画像の現地化」

◇セッション② 司会：浜田明範（国立民族学博物館・機関研究員）

15：30～16：20 緒方しらべ（総合研究大学院大学博士課程）

「アフリカ美術とつくり手の実践——ナイジェリア地方都市の『アーティスト』の事例から」

16：20～17：10 山越英嗣（早稲田大学博士課程）

「＜伝統＞をメンテナンスする——メキシコ・オアハカ市の芸術家集団 ASARO によるストリートアートを用いた実践」

11月21日（木）

10：30～12：30 「カムイノミ」見学 & 展示場見学

◇セッション③ 司会：山本陸（国立民族学博物館・機関研究員）

13：30～14：20 吉田優貴（東京女子大学非常勤講師）

「『芸術』としてのアートから、『くらしのわざ』としてのアーツへ——我々はなぜ、ケニアの髻の子供のダンスに魅惑されるのか？」

14：20～15：10 左地（野呂）亮子（筑波大学博士特別研究員）

「住まうことのアート——マヌーシュのキャラヴァン居住を事例に」

◇セッション④ 司会：河合洋尚（国立民族学博物館・助教）

15：30～16：20 ヘイリー・マクラーレン（一橋大学博士課程）

「『生きているアート』——彫り物の『アート』とエージェンシー」

16：20～17：10 阿部朋恒（首都大学東京博士課程）

「山地農耕民ハニの服飾をめぐる二つの審美的水準」

懇親会 17:30～ 第3セミナー室（2階）

11月22日（金）

◇総合討論 10:30～12:00 司会：丹羽典生（国立民族学博物館・准教授）

13：00～16：30 共同利用制度と施設の紹介、アンケートの記入

16：30～17：00 講評・表彰・閉会挨拶

